

オンライン授業（遠隔授業）構成の手引き

オンライン授業（遠隔授業）においては「対面授業と同じだけの学修（その授業の到達目標に向けた学生自身による学び活動）を担保する」ことが前提であり、同等の学修を担保できなければ、学生に単位を出すことはできません。対面授業に含まれる「教員から学生への伝達」（教えること）と「学生から教員への反応と応答」（質問に答えること、学生の状態によって教える内容を変えること）という 2 つの要素は、オンライン授業においても必ず満たさなければなりません。

オンライン授業のスタイルについて

この 2 つの要素をオンライン授業で構成する場合、以下の方法があります。

授業方法	双方向性	教員から学生への伝達例	学生から教員への反応と応答例
ライブ配信授業 (Zoom)	同時双方向	授業時間内に、「Zoom」を使って英語の発音と口の動きを見せる。	「Zoom」で学生側のカメラやマイクをオンにして発話を求める、または Zoom 内のチャットに質問を記入してもらいなどの方法で授業時間内に質問を受け付けて、授業時間内に回答する。
	非同時双方向	事前に「学びの泉」に掲載した資料について、授業時間内に、「Zoom」を使って音声による解説を行う。	授業時間前に「学びの泉」で質問を受け付けておき、その回答や資料の補足説明などを授業時間内に行う。
オンデマンド配信授業 (事前録画や資料設置)	同時双方向	事前に録画した授業動画を YouTube に限定公開でアップロードし、そのリンクを「学びの泉」で授業時間内に配信（公開）する。	「学びの泉」上で授業時間内にアンケートを実施し、質問に対する回答を授業時間内に作成し、公開する。
	非同時双方向	事前に用意した「10分～15分くらいで読み終わる資料と解説文」と「理解していれば5分程度で回答可能な事後テスト・アンケート」のセットを、授業時間内に「公開日時」を少しずつずらして公開する。	授業時間前に「学びの泉」で質問を受け付けておき、その回答や資料の補足説明などを次の授業時間内で公開する。

以下、授業手法について詳細に説明いたします。

- 教員から学生への伝達：「ライブ配信授業」または「オンデマンド配信授業」
ライブ配信授業は「授業時間内に授業を生放送する」もの、オンデマンド配信授業は「授業時間の前に作成した授業内容を授業時間内に配信する」ものです。

➤ ライブ配信授業の例：

- ◇ 授業時間内に、「Zoom¹」を使って英語の発音と口の動きを見せる
- ◇ 事前に「学びの泉²」に掲載した資料について、授業時間内に、「Zoom」を使って音声による解説を行う

➤ オンデマンド配信授業の例：

- ◇ 事前に録画した授業動画を YouTube に限定公開³でアップロードし、そのリンクを「学びの泉」で授業時間内に配信（公開）する
- ◇ 事前に用意した「10分～15分くらいで読み終わる資料と解説文」と「理解していれば5分程度で回答可能な事後テスト・アンケート」のセットを、授業時間内に「公開日時」を少しずつずらして公開する。

- 学生から教員への反応と応答：「同時双方向授業」または「非同時双方向授業」
同時双方向授業は「授業時間内の学生の反応によって内容を変える」もの、非同時双方向授業は「授業時間外の学生の反応によって内容を変える」ものです。

➤ 同時双方向授業の例：

- ◇ [ライブ配信授業の場合]「Zoom」で学生側のカメラやマイクをオンにして発話を求める、または Zoom 内のチャットに質問を記入してもらいなどの方法で授業時間内に質問を受け付けて、授業時間内に回答する。
- ◇ [オンデマンド配信授業の場合]「学びの泉」上で授業時間内にアンケートを実施し、質問に対する回答を授業時間内に作成し、公開する。

➤ 非同時双方向授業の例：

- ◇ [ライブ配信授業の場合]授業時間前に「学びの泉」で質問を受け付けておき、その回答や資料の補足説明などを授業時間内に行う
- ◇ [オンデマンド配信授業の場合]授業時間前に「学びの泉」で質問を受け付けておき、その回答や資料の補足説明などを次の授業時間内で公開する。

¹ テレビ会議ツールのひとつ。現在、大学で PRO 版の契約を準備中です。

² 本学の授業支援システム（ <https://izumi.seisen-u.ac.jp/campus/> ）

³ YouTube のプライバシー設定のひとつで、リンクを知っているユーザのみが表示できる状態のこと。他のユーザが公開再生リストに追加しない限りは、YouTube の検索結果にも表示されない。

科目の特性・履修者数・学生の環境などに応じて、これらの組み合わせ（「ライブ配信・同時双方向」「ライブ配信・非同時双方向」「オンデマンド配信・同時双方向」「オンデマンド配信・非同時双方向」の4パターン）から適切なものを選んで授業を構成することになります。また、配信するコンテンツとして動画を利用するのか、音声のみを使うのか、あるいはPDF化したテキストやプレゼンテーション資料を中心にするのか、といった点も、科目の特性によって異なるでしょう。

授業として成立させるための注意事項

ただ、対面授業と同等の遠隔授業として認められるために、必ずやっておかねばならないことがあります。オンライン授業を構成するときに授業として認められるために満たさなければならないこと、また注意しなければならないことについて説明します。

- オンライン授業（遠隔授業）を行う上では、大学設置基準に定められた「1単位あたり45時間」の学習時間の確保や、文科省告示で示された対面授業に相当する授業内容の担保、および学生のPC・インターネット環境などへの配慮のため、必ず「学びの泉」上にある各科目のページ（以下「コース」）を利用し、各回の授業内容が独立したものであるように構成してください。
- 各回の授業は、それぞれ独立した教材・講義・質疑応答によって構成される必要があります。必ず「各授業回」フォルダに「その回の授業内容」を作成してください。たとえ同じ内容で実施する科目であっても、履修者が異なる科目であれば「別の科目」として、コースごとに設定や授業の構成を行ってください（「学びの泉」で作成した授業内容（タスク）は、別のコースにコピーして使うことができます）。
 - Zoomを利用する場合は、接続に必要なURL（インターネットWebページのアドレス）やパスワードを「学びの泉」の「ノート」タスクを利用して掲載し、履修者に通知してください。ほかの手段（LINEなど）で通知を行う場合であっても、証拠として残すために、「学びの泉」にも必ず掲載してください。
- 遠隔授業が対面授業に相当するものとして認められるために、授業回ごとに、授業時間内もしくは授業時間外で「事前・事後課題の説明や解説」「レポートの添削」「アンケートによる質問の回収と回答」などを行って、双方向性を必ず担保してください。
 - 「ライブ配信・同時双方向」授業の場合は、授業時間内において学生との質疑応答を行うことにより担保することができます。授業時間内に行うことができなかった場合は、必ず「学びの泉」上で学生からの質問の受付や回答を行うようにしてください。
- Zoomを利用してライブ配信授業を実施する場合には、必ず内容を録画し、通信環境のトラブルなどで接続できなかった学生の学習資料として、後日必ず「学びの泉」に掲載

してください。（「学びの泉」の「ビデオ」タスクでもいいですし、YouTube で限定公開にした上で「学びの泉」の YouTube タスクを利用しても構いません。）

教材のオンラインでの配布と著作権管理について

- 前期における対面教科書販売の予定がまだ決定していないため、少なくとも 5 月中は学生の手元に教科書がありません。必要な資料はスキャンして PDF などに変換し、「学びの泉」に掲載してください。
- その際の著作権処理は大学側で行いますので、以下のページから「連絡がとれるメールアドレス」「お名前」「担当科目名」「利用する資料の詳細とその範囲」についての申告をお願いします。まとめて申告していただいても、授業の作成に合わせて都度申告していただいても構いませんが、前期分については 8 月 21 日（金）までに入力をお願いします。

「改正著作権法第 35 条に基づく利用実態調査」

<https://bit.ly/seisen2020copyright>

- 履修者については、必修科目および必修選択科目については 4 月 12 日時点で各コースに登録済みです。選択科目については、履修登録期間後（4 月下旬）に「学びの泉」に登録する見込みです。履修登録の確定は 5 月中旬のため、それまでの間、履修者数は変わる可能性があります。

清泉におけるオンライン授業のコツ

- 対面ではない環境でも学生の興味や関心を十分に喚起し、学生の気持ちを学びに向かわせるため、毎回の授業のはじめのコンテンツで、「授業の目的・この授業で身につけられること」などを学生に伝えるようにしてください。
- 「学びの泉」上でオンデマンド配信授業を実施する場合、動画や音声の資料を配信する場合には特に、学生の集中力を維持するため、10 分程度で 1 つの内容となるように構成してください。
- また、「その資料を閲覧しないと回答できない」小テストなどを授業時間内に実施し、「学生が閲覧して学習した」ことの確認を行ってください。
まずは以下の手順に従って、「学びの泉」の設定を行ってください。

オンライン授業を行うための機材当の条件について

学びの泉の利用に必要な機材について

「学びの泉」の利用には、以下の環境を満たして、かつインターネットに接続されたパ

ソコン・タブレット・スマートフォンが必要です。

OS	バージョン	ブラウザ
Windows	Windows 7 以上	IE 11 以上 Chrome 最新版 Microsoft Edge 最新版
Mac OS	Mac OS X 10.10 以上	Safari 10 以上
iOS	iOS 10 以上	Safari (プライベートブラウズモード利用不可)
Android	Android 5 以上	Chrome

Zoom の利用に必要な機材について

また、Zoom は上記の環境を満たすパソコン・タブレット・スマートフォンであれば利用可能ですが、マイク・スピーカー・カメラが内蔵されていない場合は、別途外付けのヘッドセットや USB ウェブカメラが必要です。

必要な機材がなくオンライン授業の実施が難しいと思われる場合は、help@seisen-u.ac.jp (連絡先は学務?) までメールにてご相談ください。

はじめの準備：「学びの泉」上の科目を設定する

詳しい手順については、別途「学びの泉」上の「遠隔授業支援:Online Class Support」コースにある機能マニュアルを参照してください。

注意：2020年5月4日～6日は定期電源設備調査のため停電（サーバ停止）が予定されており、その間は「学びの泉」を利用することができません。授業開始は5月7日ですので、必ず4月中に「はじめの準備」を完了させてください。

1. 「学びの泉」にログインします
2. 「コース一覧」に、今年度において、あなたが担当する科目（以下「コース」）がすべて表示されていることを確認してください。
3. 「コース管理」から、あなたが担当するコースすべてに、あなたが受け取れる「メールアドレス」を設定してください。これにより、コース内の機能で学生に「メール通知」を行った際の送信元メールアドレスが変更され、学生が受け取れなかった際のエラーメールを受信し、確認することができます。
4. 担当するコースの「マナビ」（授業コンテンツを置くところ）に授業回数（15回）分のフォルダを作成してください。（はじめに「マナビ」を開いたときに表示される「新しいフォルダを作成」というリンクをクリックすると「15回分のフォルダを作成」というメニューが現れるので、それをクリックして、さらに右下の「保存」を押すと作成さ

れます。)「既定」フォルダが不要であれば削除しても大丈夫です。

5. シラバスに変更がある場合は、「第1回」のフォルダに「授業内容の変更」について説明するコンテンツを必ず設置してください。

これで、「学びの泉」を利用したオンライン授業の準備は完了です。各回の授業開始時間前に、「学びの泉」の各授業回数名のフォルダに授業内容（配付資料、アンケート、Zoomのアクセス情報など）を作成してください。

困ったときの支援について

- オンライン授業の実施における学生のトラブル対応や支援については「学びの泉」上の「[学生向け]オンライン授業相談室」コースを利用して行う予定です。
- 学生から先生に直接問い合わせがきた場合には、上記コースを案内するか、help@seisen-u.ac.jpまでメールするようにお伝えください。その場合には、氏名・学籍番号・トラブルの発生した講義・時間・利用環境などを添えて送るよう伝えていただけると幸いです。

「学びの泉」上には、オンライン授業の構成サンプルに関するマニュアルや参考資料、Q&A を掲載した「遠隔授業支援:Online Class Support」というコースを用意しています。

教育・学修支援センターでは、オンライン授業に取り組まれる先生のために、できるだけの支援をしたいと考えています。何か気になること、わからないことなどありましたら教育・学修支援センター help@seisen-u.ac.jp までお問い合わせください。